

舌癖トレーニング後から第二小臼歯の牽引を行った一例

○伊東泰蔵¹、深水 篤²

所属 1 いう歯科医院 (熊本)

所属 2 伊東歯科口腔病院 (熊本)

【目的】

混合歯列期前歯部の萌出状態に異常を察知することは困難である。萌出途中での状況なのか、あるいはそこに舌突出癖（以下舌癖と略）¹⁾がある場合には正常な咬合関係が成り立たなくなる恐れがある。

そこで、歯科検診の目的で受診された小児に対して舌癖による開咬を疑い、まず口腔筋機能療法（以下 MFT 略）を約 3 年間患児と保護者に指導を行い、第一大臼歯の萌出後に、埋伏小臼歯に対する牽引と矯正治療途中までについて報告する。

【方法】

患者：7 歳 8 か月 男児

初診：2011 年 10 月 12 日

現症：混合歯列期で、乳犬歯と第一、第二乳臼歯、と中切歯と第一大臼歯が萌出していた。

前歯部の咬合状態は開咬で、臼歯部は咬合していた。嚥下の状況では舌癖が実証された。

既往歴：鼻炎などの特記事項はない。

診断：1. 舌癖による前歯部の開咬
2. 下顎左側第二小臼歯の埋伏
3. 上顎右側の唇側転位

治療および経過

① MFT トレーニングは、山口秀晴先生ら監修の“舌のトレーニング”に基づくテキストで指導を行った。ペーシックエクササイズとして、レッスン 1 から 8 までを繰り返し行った。

また口のまわりの筋肉強化するためのくちびるストレッチなども含めた練習を行ってきた。

- ② 下顎左側第二小臼歯の埋伏については、第二乳臼歯の抜歯の前に、リンガルアーチを装着し保険を行った。
- ③ 乳歯抜歯時に、リンガルボタンを接着したが外れたりして牽引を中止した。その後萌出待ちとした。

【結果】

1) 矯正前の MFT の評価について
初診時と経過での口腔内写真と側方 X 線規格写真との比較を行った。上下顎前歯の歯軸の改善を認めた。

2) 牽引方法について
乳歯抜歯時において、小臼歯歯冠部の骨の削除が不十分であった。そのため乾燥や止血が出来なかったため接着不良となった。約 1 年の経過後に自然萌出を認めた。

3) その後本格矯正治療を開始した。

【まとめ】

口腔習癖の中で、この舌癖を発見する事は困難である。発見次第、まずはこの舌トレーニングを開始するが、患児や保護者の協力が必須である。

しかし今回は、長姉が矯正治療中であり、一緒に行うのに理解があった事が良かったと思われた。

【文献】

- 1) 山口秀晴、大野肅英、佐々木洋：舌のトレーニング. わかば出版, 2014